



久留米城下町遺跡

(旧細工町)

—第20次発掘調査報告—



平成 25 (2013) 年 2 月

久留米市教育委員会

序

久留米市は、筑紫平野の中心に位置し、古くから水路と陸路の要衝としての位置を占めてきました。このため市内には、先人達の残した多くの文化遺産が存在します。江戸時代には、久留米城は有馬氏の居城となり、久留米は21万石の城下町として栄えました。

今回の調査では、江戸時代の細工町の町屋遺構を発見しました。銅細工や鍍金細工に関わる資料が出土し、久留米の城下町に生きた職人たちの息遣いが伝わってくるようです。

この成果を活かして、今後の久留米市の市民文化や、教育の発展、さらには地域経済の活性化に貢献できることを願っております。また、発掘調査に際して多大なご協力をいただきました株式会社西原糸店をはじめ、周辺住民の皆様に心より御礼申し上げます。

平成 25 年 2 月 28 日

久留米市教育委員会
教育長 堤 正 則

例 言

1. 本書は、店舗兼住宅建設に先立ち、平成 24 年度に株式会社西原糸店の委託を受けて実施した、久留米城下町遺跡第 20 次調査の発掘調査報告書である。
2. 調査は久留米市教育委員会が調査主体となり、市民文化部文化財保護課の江頭俊介が担当した。本書に掲載した遺構実測図の作成は、江頭と森啓恵、塚本明美が行い、浄書は江頭と古賀和子が行った。
3. 遺構写真は、マミヤ RB67 を用いて江頭が撮影した。遺物写真撮影はニコンデジタルカメラを用いて、久留米市埋蔵文化財センターにおいて、塚本映子が行った。なお、本文中の遺物番号と写真図版の遺物番号は同一である。
4. 遺構実測図は国土調査法第Ⅱ座標系（世界測地系）を基に作成し、図面の方位は全て座標北を示す。
5. 本書に使用した遺構の略記号は、S B－掘立柱建物、S E－井戸、S K－土坑、S P－ピット、S X－鍛冶炉を示す。
6. 出土遺物・記録類は、全て久留米市埋蔵文化財センターにおいて収蔵・保管されている。
7. 本調査の略記号は L K M－20、調査番号は 201212 である。
8. 本書の執筆・編集は江頭が行った。

本文目次

I. 諸言	1
II. 位置と環境	2
III. 調査の記録	5
IV. 総括	13

I. 諸言

1. 調査に至る経過

本調査は、店舗兼住宅建設に伴う事前の発掘調査である。平成23年9月26日、地権者の株式会社西原糸店から、久留米市中央町35-1、35-2、36における「埋蔵文化財包蔵の有無」の照会が提出された。当該地一帯は、周知の遺跡である久留米城下町遺跡内にあたり、今回の調査地においても、江戸時代の町屋に伴う遺構が残存している可能性があると考えられたため、同年10月4日発掘調査が必要である旨回答した。翌平成24年2月20日、地権者である株式会社西原糸店より、発掘調査の依頼が提出され、それを受けて同年5月29日久留米城下町遺跡第20次調査の委託契約を締結した。同年6月4日より、発掘調査を開始し、同年6月20日に発掘調査を終了した。その後平成25年2月28日まで整理作業と報告書の作成を行った。

2. 調査の体制

調査主体：久留米市教育委員会	教 育 長：堤 正則
調査総括：市民文化部	部 長：辻 文孝
	次 長：佐藤 光義
文化財保護課	課 長：古賀 正美
	課長補佐兼主査：宮崎 俊一
	課長補佐：園井 正隆
	課 主 査：白木 守、辻 義則
	庶務担当：豊福 早苗
	調査担当：江頭 俊介
	整理担当：古賀 和子、中里由佳絵

発掘調査臨時職員

秋吉 力、合戸 喬一、勝田 美代子、蒲池 稔、小柳 秋男、塚本 明美、津留崎 利子、
原口 貞子、細江 チヅ子、森 啓恵

発掘調査整理臨時職員

岩村 万喜子

3. 調査の目的と経過

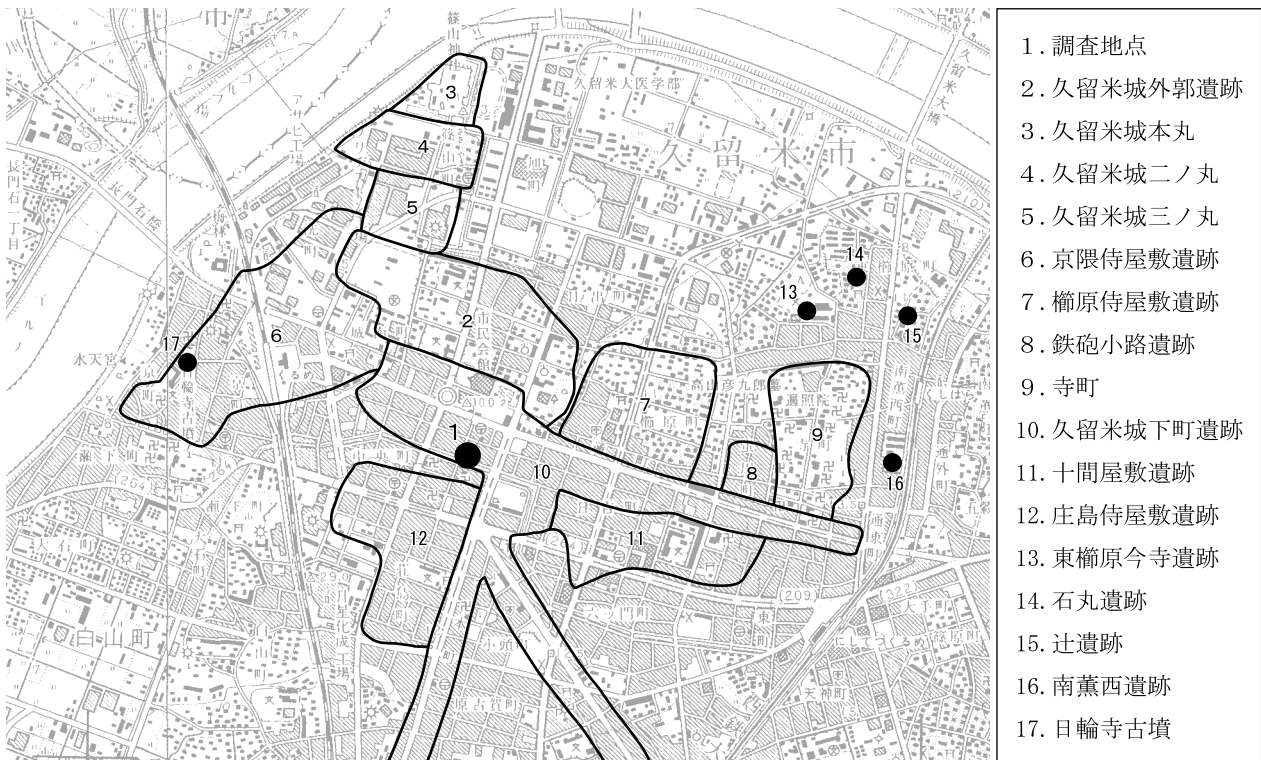
調査地は旧細工町南筋に所在する。江戸時代の町屋の状況を確認することを目的とした調査である。平成24年6月4日、重機による表土剥ぎを行った。地表下1.3m程は近現代の整地層であり、その下に暗褐色～青灰色粘土層の遺構面が検出された。各遺構の調査・記録を行い、平成24年6月20日に高所作業車による調査区全体の写真撮影を行った。同日埋め戻しを行い、発掘調査を完了した。その間、周辺住民や篠山小学校の児童など、多数の見学者が訪れた。遺構実測はトータル・ステーションで行い、「遺構くんC u b i c」で編集した。記録写真は、カラーリバーサル・モノクロ6×7判で撮影した。翌平成25年2月28日までは、遺物整理と報告書作成を行った。

II. 位置と環境

久留米市は、九州の北部、筑後川の中流域にあたり、筑紫平野の中心に位置する。古代においては筑後国府や国分寺が置かれ、筑後地区の政治・経済・文化の中心を占めた。近世には、毛利氏、田中氏の代を経て、有馬氏二十一万石の城下町として栄えた。近代は軍都として、また繊維産業とゴム産業の街として栄え、現在まで県南の中核都市として発展している。

久留米城の名が史料に現れるのは中世末期である。天正11年（1583）に高良山座主の弟麟圭が、久留米城に籠ったとされ、このころには高良山勢力の一拠点としての久留米城が建設されていたようである。秀吉の九州仕置ののち久留米城に毛利秀包が入城し、その後麟圭は誘殺された。毛利秀包は、肥後国人一揆や朝鮮出兵を経て関ヶ原敗戦までの14年間在城する。この間の久留米城の縄張りや城下町の町割については明らかでないが、平成3年の両替町遺跡の調査（久文報116集）において毛利氏時代の教会建物の遺構が検出されており、城下町の姿が断片的にとらえられる。

関ヶ原の戦いの後、田中吉政によって久留米城が整備された。柳川城が本城となり、支城の久留米城や福島城はそれぞれ道路で結ばれた。福島城や赤司城などの田中氏の支城は、多重の堀を方形に巡らせた縄張りをしており、久留米城も同様に本丸を中心として周囲に侍屋敷や城下町が廻り、濠で囲まれた構造をとっていたと考えられている。正面は東を向き、府中へ向かう街道と柳川へ向かう街道を軸として、内町、元町、三本松町などが存在し、城の西側には洗切りがあったと考えられている。元町は矢野一貞によると「祇園丁也」とあり、現在祇園社がある久留米城外郭地区から片原町一帯にかけての地域が想定される。内町は、その名から、元町よりも濠を挟んで内側にあると考えられる。



第1図 周辺の遺跡分布図（1／25,000）

平成3年の両替町遺跡の調査（久文報116集）では田中氏時代の濠が検出されている。『石原家記』から、細工町や呉服町あたりの町屋は有馬氏入封以前から存在していた可能性が高く、両替町付近を東西方向に走行する外濠を挟んでその内外に町が形成されていたようである。

田中氏が二代忠政の後嗣子が無く断絶したのち、有馬豊氏が1621年に筑後北半国21万石の領主として久留米城に入城した。この時から大規模な造成事業が行われ、現代に残る久留米の町並みが整備された。このとき元町が城内になったと言われており、元町は外郭に改変されたと思われる。細工町周辺の町屋は、元町よりもさらに外側にあったと考えられる。外郭建設に伴う外濠掘削事業が呉服町や両替町の商人たちに割り振られており、有馬氏は前代の町割を基盤として、町人の労働力と経済力を動員して町づくりをしていったと考えられる。

本調査地が位置する細工町は、現在の久留米市役所がある通町の一本南側を東西に走行する道路沿いの両側町である。その名が示すとおり銅製品などの細工物を中心とした職工の町であり、久留米藩の鋳物師桂永寿を輩出している。周辺の呉服町、両替町、亀屋町などと軸を同じくしており、それらと一体となって一つのブロックを形成している。

このブロックは、近世において大手門前の城下随一の繁華街として栄えた。近代は繊維産業の間屋街として更なる発展をとげた。現在では「あきない通り」として久留米の伝統を継承しながら新たな町おこしをおこなっている。なお本調査区の周辺では平成9年の魚屋町第1・2次調査、平成16年の久留米城下町遺跡第16次調査（魚屋町）、久留米城下町第14次調査（米屋町）などの調査が行われている。



第2図 城下町復元図（○は調査地）

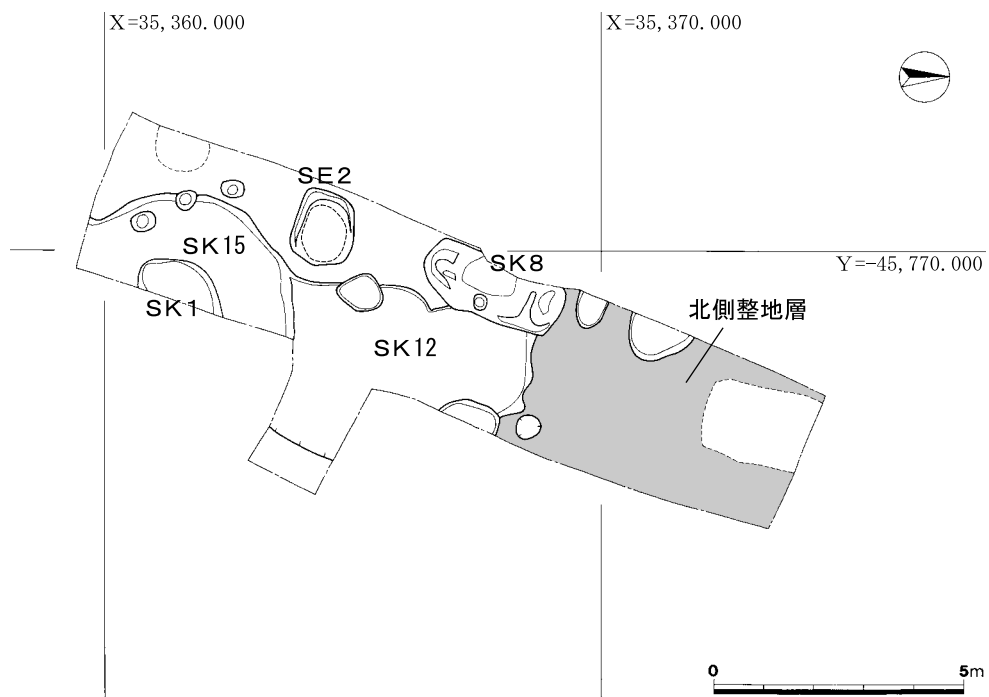


第3図 久留米城下町遺跡第20次調査区位置図（1/3,000）

下層遺構



上層遺構



第4図 久留米城下町遺跡第20次調査遺構配置図 (1/100)

Ⅲ. 調査の記録

1. 検出遺構

今回の調査では近世の掘立柱建物1棟、土坑10基、井戸1基、その他ピット少数、近世の整地層一箇所を検出した。

下層の遺構

掘立柱建物

SB28（第4図）

調査区北側から東側にかけて検出した桁行5間以上（10.6m以上）、梁間1間以上（1.9m以上）の南北棟建物である。柱間は1.9m～2.1mである。各柱穴の直径は40cm程度である。北西角のSP26では初期伊万里の碗（1）が出土している。また、この遺構を被覆している整地層（北側整地層）には、17世紀前半の遺物が包含されているため、建物の時期は17世紀前半以前のものと考えられる。北側の道路に面して建っていたと思われ、建物北側は店舗、中央にかけては廊下であったと考えられる。

上層の遺構

井戸

SE2（第4・5図）

調査区南側で検出した直径1.5m、深さ1m以上の素掘りの井戸である。18世紀中頃の遺物が出土している。

土坑

SK1（第4・6図）

調査区南側で検出した長さ1.7m、幅0.8m以上、深さ50cmの円形土坑である。埋土には17～18世紀前半の遺物を含む。

SK8（第4・7図）

調査区中央で検出した長さ2.9m、幅1m以上、深さ0.7mの方形土坑である。SK12より後出する。埋土には18世紀前半～中頃の遺物を含む。陶磁器の他、埴埴、銅製品、銅の切り屑などが出土している。

SK12（第4・8図）

調査区中央で検出した長さ5.1m、幅3.7m、深さ0.3mの楕円形の土坑である。SB28に後出し、SK3、SK9、S



第5図 SE2掘削状況（北から）



第6図 SK1完掘状況（東から）



第7図 SK8完掘状況（南から）



第8図 SK12完掘状況（北東から）

K12、S K15、S K16 に先行する。17 世紀前半から 18 世紀前半の遺物を含む。陶磁器の他、銅の切り屑、北宋銭などが出土している。

S K15（第 4 ・ 9 図）

調査区南側で検出した長さ 4.2m、幅 2.2m 以上、深さ 0.3m の土坑である。S X20、S K12 より後出し、S K1 に先行する。17 世紀～ 18 世紀中頃の遺物を含む。陶磁器の他、埴塼、銅製品、銅の切り屑、未成品などが出土している。

鍛冶炉

S X20（第 4 ・ 10 図）

調査区南端で検出した直径 0.5m、深さ 0.2m のピットである。埋土は 2 層に別れ、上層は黒色の灰が充填されており、下層は 2 ～ 3 cm 程の厚さで灰色の粘土が底面に貼り付けられている。下層の灰色粘土には木質が多く含まれている。上層、下層ともに湿抜きを意識したものと考えられ、この遺構が鍛冶炉であると判断できる。遺物は陶器の小片などが出土している。

北側整地層

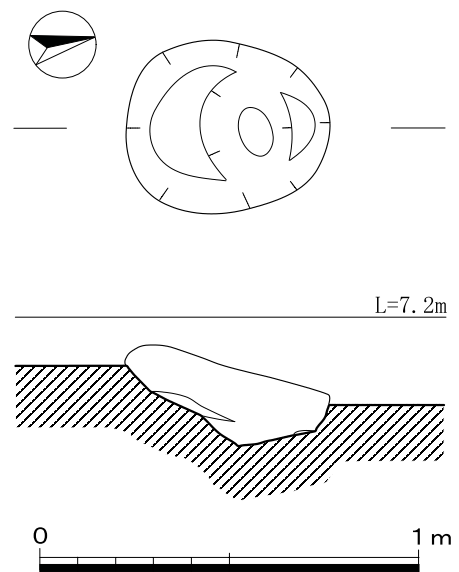
S K12 より北側では、17 世紀の遺物を多く含む整地層が 30 cm の厚さで検出されている。

出土遺物

今回の調査では 17 世紀前半から 18 世紀中頃の陶磁器、銅製品、未成品、銅屑、埴塼などが出土した。特筆すべき遺物としては各遺構出土の埴塼や、内曇りと呼ばれる上質の土師器皿で、両面に朱漆が塗られている S K15 出土の土師器皿（101）、贈答品の荷札と考えられ墨書「御菓子」がある木器（126）、「寛文」と墨書がある出入り札（127）があげられる。その他は第 1 ・ 2 表を参照願いたい。



第 9 図 S K15 完掘状況（南東から）



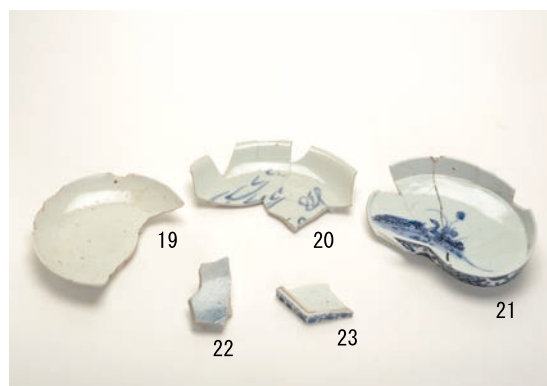
第 10 図 S X20 実測図（1/20）



第 11 図 S X20 土層断面（北から）

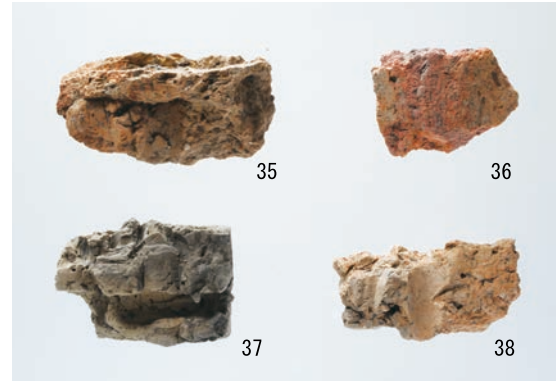


第 12 図 調査区全景（南から）

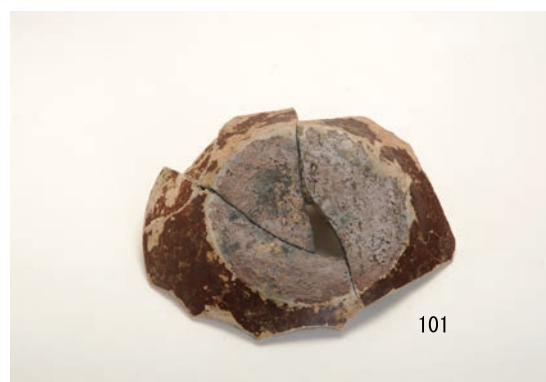
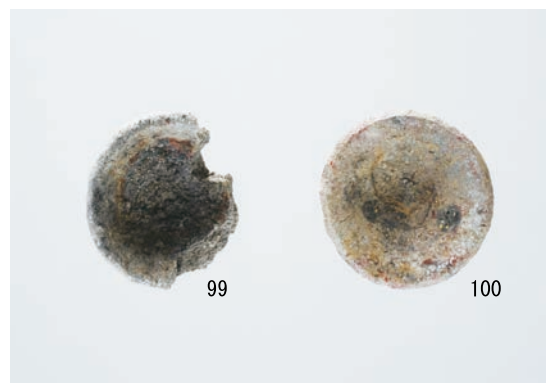
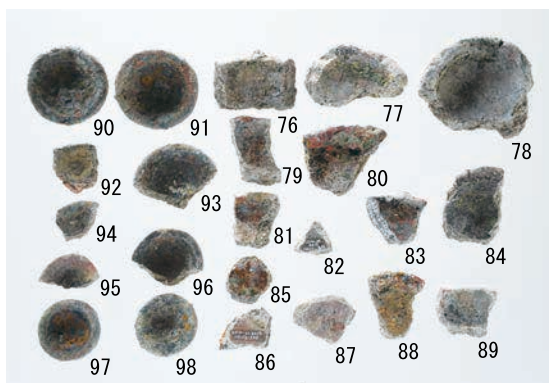


第13図 出土遺物写真 1

III. 調査の記録

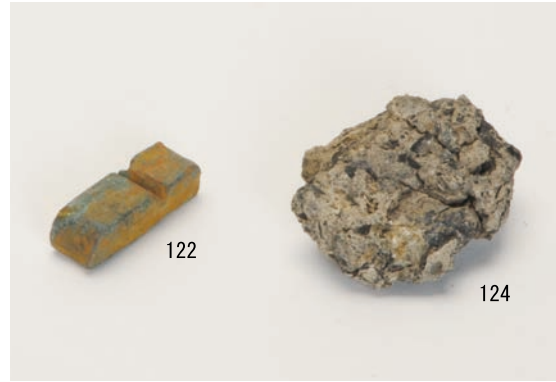


第14図 出土遺物写真 2



第15図 出土遺物写真 3

III. 調査の記録



第16図 出土遺物写真 4

第1表 出土遺物観察表①

遺物No.	出土遺構	材質	器種	法量			色調(染付・釉薬)		調整(文様)			胎土(製作地)	備考	登録番号
				口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	外面	内面	外面	内面	底面・高台 内印銘等			
1	S B28	磁器	碗	-	-	(4.5)	染付		唐草	-	砂目	肥前	初期伊万里	201212-378
2	S E 2	磁器	碗	[9.0]	3.8	4.7	染付	こんにやく 桐	-	-	-	肥前		201212-14
3	S E 2	磁器	碗	8.3	3.7	4.2	染付	こんにやく 桐	-	-	-	肥前		201212-13
4	S E 2	磁器	碗	[10.0]	-	5.8	色絵	柿	-	-	-	肥前		201212-13
5	S E 2	磁器	中皿	-	[8.7]	(2.0)	染付	-	山水	-	-	朝妻	18 c	201212-18
6	S E 2	磁器	仏飯	-	4.0	6.2	染付	唐草	-	-	-			201212-21
7	S K 1	貝殻	貝殻	-	-	-	-	-	-	-	-		ハマグリ、アサリ、シジミ、 ハイガイ	201212-12
8	S K 1	銅製品	煙管雁首	6.5	2.3	1.5	-	鍍金	-	-	-		17cか 9.4 g	201212-4
9	S K 1	銅製品	煙管吸口	7.1	0.8	-	-	鍍金	-	-	-		4.5 g	201212-4
10	S K 1	銅銭	寛永通寶	2.5	-	-	-	-	-	-	-		古寛永 3.5g	201212-6
11	S K 1	銅製品	寛永通寶	2.4	-	-	-	-	-	-	-		摩滅 2.6g	201212-6
12	S K 1	銅製品	切りくず	2.9	-	-	-	-	-	-	-		環状 1.2g	201212-9
13	S K 1	銅製品	切りくず	1.5	1.2	-	-	-	-	-	-		板状 1.6g	201212-11
14	S K 1	銅製品	切りくず	1.7	-	-	-	-	-	-	-		環状 1.8g	201212-10
15	S K 1	銅製品	切りくず	1.1	-	-	-	-	-	-	-		環状 0.1g	201212-8
16	S K 8	磁器	碗	9.8	-	(4.3)	染付	草花	-	-	-	肥前		201212-34
17	S K 8	磁器	盃	5.7	2.5	4.2	染付	「寿」	-	-	-	肥前	釉生かけ	201212-66
18	S K 8	磁器	碗	-	5.2	6.5	白磁	-	-	-	-	肥前		201212-284
19	S K 8	磁器	中皿	13.1	5.8	2.7	白磁	-	-	-	-	肥前	17c	201212-292
20	S K 8	磁器	中皿	-	-	2.5	染付	-	「風」・波	-	-	肥前	SK12と接合	201212-290
21	S K 8	磁器	皿	(5.0)	(1.1)	3.2	染付	-	鳥・山水	-	-	肥前	漆接ぎ	201212-297
22	S K 8	磁器	中皿	-	-	(2.8)	染付	-	吹墨	-	-	肥前	17 c	201212-293
23	S K 8	磁器	合子	-	-	(1.4)	染付	草花	-	-	-	肥前	菱形	201212-296
24	S K 8	陶器	碗	[11.0]	4.3	6.3	黒釉(天目風)	-	-	-	-			201212-78
25	S K 8	陶器	碗	[17.4]	5.8	7.6	褐釉	-	-	-	-			201212-313
26	S K 8	陶器	碗	-	4.8	(3.8)	緑釉	-	-	-	砂目		17 c	201212-317
27	S K 8	陶器	碗	[12.4]	-	6.2	緑釉	-	-	-	砂目		17 c	201212-318
28	S K 8	陶器	碗	[11.2]	4.9	6.7	緑釉	-	-	-	砂目		17 c	201212-319
29	S K 8	磁器	中皿	13.7	4.7	3.3	青磁	-	-	見込蛇ノ目釉剥	-	肥前	17 c	201212-325
30	S K 8	陶器	大皿	-	7.2	(3.0)	銅緑釉	-	-	見込蛇ノ目釉剥 ・砂目	-		17 c	201212-77
31	S K 8	陶器	溝縁皿	[12.8]	4.6	3.4	緑釉	-	-	砂目・兜巾	-	肥前	17 c	201212-326
32	S K 8	磁器	小皿	[9.8]	3.6	3.3	白磁	-	-	-	砂目	肥前	17 c	201212-283
33	S K 8	陶器	鉢	[28.0]	11.0	8.8	黄釉・緑釉	櫛掻文	-	-	-			201212-300
34	S K 8	陶器	壺	7.4	6.7	11.7	褐釉・灰釉	-	-	-	兜巾			201212-339
35	S K 8	土	壁土	10.7	5.3	4.8	赤褐色	-	-	-	-		被熱 171 g	201212-90
36	S K 8	土	壁土	7.4	2.9	3.1	赤褐色	-	-	-	-		被熱 84 g	201212-92
37	S K 8	土	壁土	8.8	5.9	3.9	暗灰色	-	-	-	-		被熱 89 g	201212-88
38	S K 8	土	壁土	9.4	4.3	3.6	赤褐色	-	-	-	-		被熱 96 g	201212-89
39	S K 8	石製品	砥石	3.8	2.7	1.0	灰白色	-	-	-	-		15g	201212-336
40	S K 8	石製品	砥石	8.8	2.4	1.8	灰白色	-	-	-	-		56g	201212-167
41	S K 8	石製品	蔽石	7.0	5.6	2.2	灰色	-	-	-	-		64g	201212-342
42	S K 8	土器	埴埴	6.0	-	(3.3)	灰白色	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-81
43	S K 8	土器	埴埴	7.2	-	3.2	赤褐色+灰色	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	赤色銅付着	201212-298
44	S K 8	土器	埴埴	-	-	1.8	赤褐色+灰色	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	金付着	201212-82
45	S K 8	土器	埴埴	5.1	-	2.3	赤褐色+灰色	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-299
46	S K 8	土器	埴埴	4.5	-	1.9	赤褐色+灰色	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-84
47	S K 8	土器	埴埴	-	-	1.3	赤褐色+灰色	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-83
48	S K 8	土器	埴埴	5.0	-	2.2	赤褐色+灰色	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-312
49	S K 8	土器	埴埴	-	-	2.2	赤褐色+灰色	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-85
50	S K 8	木器	皿	[13.2]	-	2.4	赤色	朱漆	朱漆	-	-			201212-338
51	S K 12	磁器	中皿	[13.6]	[8.0]	3.4	染付	唐草	草花・五弁花	蛇ノ目凹	-	肥前	18c前半	201212-161
52	S K 12	磁器	盃	[5.9]	2.7	4.0	白磁	-	-	-	砂目	肥前		201212-134
53	S K 12	磁器	盃	5.3	2.0	3.3	白磁	-	-	-	砂目	肥前	17c釉生かけ	201212-133
54	S K 12	磁器	大皿	-	[18.0]	(1.3)	染付	-	竹・草花	「大明成化年製」	-	肥前		201212-168
55	S K 12	磁器	中皿	-	4.7	(1.8)	染付	-	草花	砂目・兜巾	-	肥前	17c釉生かけ	201212-169
56	S K 12	磁器	中皿	-	[5.2]	(1.8)	染付	-	唐草・菊	砂目	-	肥前	17c	201212-126
57	S K 12	銅製品	煙管雁首	6.2	1.9	0.8	緑青	鍍金	-	-	-		屈曲 17c 7.5g	201212-193
58	S K 12	銅製品	煙管吸口	4.0	1.0	0.8	緑青	鍍金	-	-	-		2.7g	201212-194
59	S K 12	銅製品	雁首部品	1.7	-	1.0	緑青	-	-	-	-		未成品 3.4g	201212-192
60	S K 12	銅銭	紹聖元寶	2.3	-	0.1	緑青	-	-	-	-		摩滅 3.2g	201212-190
61	S K 12	銅銭	寛永通寶	(1.4)	-	0.1	緑青	-	-	-	-		0.7 g	201212-191
62	S K 12	銅製品	切りくず	2.4	2.0	0.05	緑青	-	-	-	-		方形 3.3g	201212-189
63	S K 12	銅製品	切りくず	0.4	2.1	0.05	緑青	-	-	-	-		方形 2.2g	201212-188
64	S K 12	銅製品	切りくず	2.2	2.1	0.05以下	緑青	-	-	-	-		円形 0.7g	201212-153
65	S K 12	銅製品	切りくず	9.2	2.6	0.1	緑青	-	-	-	-		弧形 10.5g	201212-187

Ⅲ. 調査の記録

第2表 出土遺物観察表②

遺物No.	出土遺構	材 質	器 種	法 量			色 調(染付・釉薬)		調 整 (文様)			胎 土 (製作地)	備 考	登録番号
				口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	外 面	内 面	外 面	内 面	底面・高台 内印銘等			
66	S K12	銅製品	切りくず	3.8	2.8	0.1	緑青	-	-	-	-		方形?4片 6.1g	201212-152
67	S K12	銅製品	切りくず	3.3 1.8	0.7 1.1	0.1	緑青	-	-	-	-		短冊形2片 4.2g	201212-154
68	S K12	銅製品	切りくず	-	-	-	緑青	-	-	-	-		細形9片 6.3g	201212-151
69	S K12	銅製品	切りくず	-	-	-	緑青	-	-	-	-		方形細形20片20.6g	201212-186
70	S K15	磁器	碗	-	4.3	(2.9)	染付	-	草花	-	-		17c釉生かけ	201212-265
71	S K15	磁器	碗	-	4.2	(3.3)	染付	-	こんにゃく	-	-		18c中頃	201212-269
72	S K15	磁器	碗	9.1	3.9	5.3	白磁	-	-	-	-		口鏝	201212-264
73	S K15	陶器	中皿	-	4.3	(1.8)	黄褐釉	-	-	-	砂目		17c	201212-250
74	S K15	陶器	中皿	-	4.5	(3.2)	灰釉	-	-	-	砂目		17c	201212-251
75	S K15	磁器	中皿	14.0	4.9	3.5	青磁	-	-	-	見込蛇ノ目釉刺・砂目		釉生かけ	201212-252
76	S K15	土器	埴埴	[8.2]	-	(3.4)	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-206
77	S K15	土器	埴埴	[7.4]	-	(2.4)	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-272
78	S K15	土器	埴埴	[7.0]	-	3.0	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-204
79	S K15	土器	埴埴	-	-	(3.4)	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-210
80	S K15	土器	埴埴	[9.0]	-	(3.5)	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-205
81	S K15	土器	埴埴	-	-	(2.7)	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-273
82	S K15	土器	埴埴	-	-	(1.0)	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-212
83	S K15	土器	埴埴	-	-	(2.6)	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-209
84	S K15	土器	埴埴	-	-	(3.9)	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-207
85	S K15	土器	埴埴	-	-	(1.0)	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-213
86	S K15	土器	埴埴	-	-	(2.0)	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-208
87	S K15	土器	埴埴	-	-	(2.5)	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-215
88	S K15	土器	埴埴	[6.0]	-	(3.2)	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-211
89	S K15	土器	埴埴	[6.8]	-	(2.8)	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-214
90	S K15	土器	埴埴	4.3	-	1.8	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着・金付着	201212-275
91	S K15	土器	埴埴	4.6	-	2.3	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-276
92	S K15	土器	埴埴	-	-	(2.5)	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-274
93	S K15	土器	埴埴	4.9	-	1.9	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着・金付着	201212-277
94	S K15	土器	埴埴	-	-	(2.2)	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-220
95	S K15	土器	埴埴	3.5	-	1.6	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	金付着	201212-219
96	S K15	土器	埴埴	4.0	-	1.8	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-218
97	S K15	土器	埴埴	3.3	-	1.6	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-278
98	S K15	土器	埴埴	3.4	-	1.7	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	銅付着	201212-279
99	S K15	土器	埴埴	4.4	-	1.7	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	金付着	201212-216
100	S K15	土器	埴埴	4.3	-	1.3	灰白色+赤銅色+緑青	-	-	-	-	白雲母・長石・石英	金付着	201212-217
101	S X15	土師器	皿	-	7.0	1.9	黄白色+赤色	朱漆	朱漆	-	-	精良	内曇り	201212-470
102	S X20	陶器	皿	-	-	(3.3)	灰釉	-	-	-	胎土目	肥前	17c前半	201212-471
103	S K15	銀	素材?	1.1	1.1	-	銀色	-	-	-	-			201212-476
104	S K15	銅製品	切りくず	-	-	-	緑青	-	-	-	-		細形10片 8.9g	201212-361
105	S K15	銅製品	切りくず	-	-	-	緑青	-	-	-	-		短冊形3片 12.0g	201212-360
106	S K15	銅製品	延べ棒	2.9	1.3	0.5	緑青	-	-	-	-		長方形 15.5g	201212-370
107	S K15	銅製品	部品	8.9	4.2	0.1	緑青	-	-	-	-		17.5g	201212-227
108	S K15	銅製品	飾り金具	6.9	5.1	0.05以下	緑青	-	-	-	-		5.4g	201212-228
109	S K15	銅銭	寛永通寶	3.2	2.4	1.0	緑青	-	-	-	-		8枚溶着 古寛永27.3g	201212-225
110	S K15	銅製品	切りくず	-	-	-	金色	鍍金	鍍金	-	-		5片 6.3g	201212-221
111	S K15	石製品	砥石	5.1	4.6	0.6	黄白色	-	-	-	-	チャート?	10.1g	201212-223
112	S K15	石製品	砥石	3.5	3.2	0.4	黄白色	-	-	-	-	チャート?	12.9g	201212-222
113	S K15	石製品	砥石	4.9	1.1	0.3	黄白色	-	-	-	-	チャート?	4.2g	201212-224
114	S K15	石製品	砥石	9.6	5.4	1.1	黄白色	-	-	-	-	チャート?	鋭角な切れ込み多数 32.4g	201212-221
115	北側整地層	磁器	大皿	23.0	8.8	4.9	青磁	-	草花陰刻・蓮弁	砂目・蛇ノ目高台	-			201212-430
116	北側整地層	磁器	鉢	-	19.4	(3.4)	青磁	-	牡丹陰刻	砂目	中国			201212-429
117	北側整地層	陶器	碗	-	5.0	(4.2)	灰釉	-	-	-	胎土目	肥前	17c 前半	201212-436
118	北側整地層	陶器	碗	-	4.5	(4.5)	灰釉	-	-	-	胎土目	肥前	17c 前半	201212-437
119	北側整地層	磁器	碗	-	4.7	3.2	染付	-	圈線	-	兜巾・砂目	肥前	17c 前半釉生かけ	201212-433
120	北側整地層	磁器	碗	-	4.7	(4.7)	染付	-	草花	砂目	-	肥前	17c 前半	201212-381
121	北側整地層	磁器	中皿	(13.4)	5.3	3.2	染付	-	草花	砂目	-	肥前	17c 前半	201212-388
122	S K 8	銅製品	延べ棒	2.8	0.9	0.7	緑青	-	-	-	-			201212-364
123	S K15	銅製品	延べ棒	3.5	1.0	0.6	緑青	-	-	-	-			201212-230
124	S K 8	金属	鉛?	4.2	3.4	1.9	黒色・銀色	-	-	-	-			201212-346
125	S K15	銅製品	刀装具	4.2	1.7	0.4	緑青	-	龍	-	-		目貫	201212-236
126	S K17	木器	荷札	18.7	3.5	0.2	-	-	-	-	-		墨書「御菓子」	201212-479
127	S K17	木器	出入り札	11.4	6.0	1.2	-	-	-	-	-		墨書「寛文□□」	201212-480
128	S K17	木器	羽子板	16.8	7.7	1.0	-	-	-	-	-		人物画あり	201212-481
129	S K17	木器	看板?	20.0	8.4	1.0	-	-	-	-	-		瓢箪形	201212-482
130	S K17	木器	曲物の底	21.3	4.3	0.4	-	-	-	-	-		墨書?	201212-483

IV. 総括

本調査において出土した遺物と遺構から、本調査地の近世の様相について述べる。

まず、下層で検出された掘立柱建物 S B 28 であるが、この建物の時期は、S P 26 から出土した染付碗（1）より、17 世紀前半に求められる。S B 28 を検出した面の上には北側整地層が被覆している。この整地層中には 17 世紀前半の陶磁器や銅製品の生産に関わる遺物が出土している。また、調査区南端の S X 20 も上層の S K 15 の底面から検出されたもので、北側の下層遺構と時期を同じくしていると考えられる。S X 20 の埋土（炭層）から 17 世紀の陶器皿（102）などが出土している。

上層の遺構は、おおよそ 18 世紀中頃までにおさまる。遺物の時期から見ると、S K 1 は S K 15 と同一遺構であり、埋土の単位の違いによる差異を別遺構として扱ってしまったようである。S K 8 や S K 12、S K 15 などの土坑は廃棄土坑と考えられ、どの土坑からも銅製品の生産に関わる遺物が出土していることは注目に値する。

鑄造関係資料と細工町

今回の調査では、下層の遺構、北側整地層、上層の遺構のほぼどれからも、銅の鑄造や細工に関わる資料が出土している。本調査地は細工町の中央付近の南側筋にあり、本調査地に当時居住した人物は銅製品に関する細工物業を営んでいたと言える。

埴塼は径が 7 cm 以上の一群①と、5 ～ 4 cm 台の一群②、さらに 3 cm 台の一群③の三群に分けられ、それぞれ使用工程や、取り扱う金属が異なるものと考えられる。②③にのみ金が付着しており、鍍金のために使用されたと考えられる。①は銅素材（106、122、123）を溶解するために使用されたと考えられる。煙管はいくつか出土しており、未成品と考えられるもの（59）もある。また、煙管には鍍金が施されており、これらの製品に鍍金をするために金とともに銀（103）や水銀を混ぜて②③の埴塼で熱していたと考えられる。他に銅の切りくずが非常に多く出土しており、①で溶かして板状に加工した銅製品を曲げたり切ったりして製品を作っていたことがわかる。金属分析を行っていないため使用された金属の種類について詳細は不明だが、近世の銅製品には、溶けやすくし、曲げやすくするために鉛が含まれていることが一般的であるので、本調査区でも分析を行えば、鉛が検出されよう。124 は鉛の可能性がある。以上から本調査地で細工業を営んだ町屋は、鍍金加工を伴った煙管、刀装具（123）、家具の装飾品など小型銅製品の生産を行っていたと考えられる。また、城内への出入り札と考えられる木器（127）には、「寛文」と記されており、寛文年間ごろにこの家の住人であった細工師は、城内（外郭より内側）の上級武士を商売相手としていたことが窺える。

細工町は、『石原家記』などの資料からすると、有馬氏時代以前から町屋が立ち並んでいたと考えられ、下層の掘立柱建物 S B 28 と鍛冶炉 S X 20 は有馬氏代以前の遺構の可能性がある。田中吉政は、筑後入国時に商人、職人を家臣団とともに連れてきており、その数あわせて二千人にのぼるという。細工町の職人も、この頃本調査地に居をかまえ、18 世紀中頃まで細工職人として活動していたのではなかろうか。

報告書抄録

ふりがな	くるめじょうかまちいせき
書名	久留米城下町遺跡 ―第20次発掘調査報告―
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書
シリーズ番号	第325集
編著者名	江頭 俊介
編集機関	久留米市 市民文化部 文化財保護課
所在地	〒830-8520 福岡県久留米市城南町15番地3 Tel 0942-30-9225 FAX 0942-30-9715 Email : bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp
発行年月日	平成25年(2013) 2月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
くるめじょうかまちいせき 久留米城下町遺跡 第20次調査	くるめし 久留米市 じょうなんまち 城南町	40203	—	33° 19′ 45″	130° 30′ 30″	20120604 ～20120620	75m ²	記録保存調査

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
久留米城下町遺跡 第20次調査	集落	近世	掘立柱建物 1棟 土坑 10基 井戸 1基 ピット 整地層 1箇所	近世陶磁器、鋳造関係 遺物、銅製品、石製品、 木製品	細工町の町屋。銅細工関係 資料多数出土。

要約

細工町の町屋について調査を行った。17世紀から18世紀前半にかけての遺構と、埧塙や切りくず、未成品などの銅細工や鍍金加工技術に関する遺物が多量に出土し、近世城下町の銅細工生産の実態を解明する貴重な資料が得られた。また、漆塗りの土師器など特異な遺物も出土した。

土木工事の届出日	平成24年3月18日	遺物の発見通知日	平成24年6月25日 (24文財第361号)
----------	------------	----------	---------------------------

久留米城下町遺跡
(旧細工町)

―第20次発掘調査報告―
久留米市文化財調査報告書 第325集
平成25年2月28日

発行 久留米市教育委員会
編集 久留米市 市民文化部 文化財保護課
印刷 永松印刷
久留米市中央町20-22